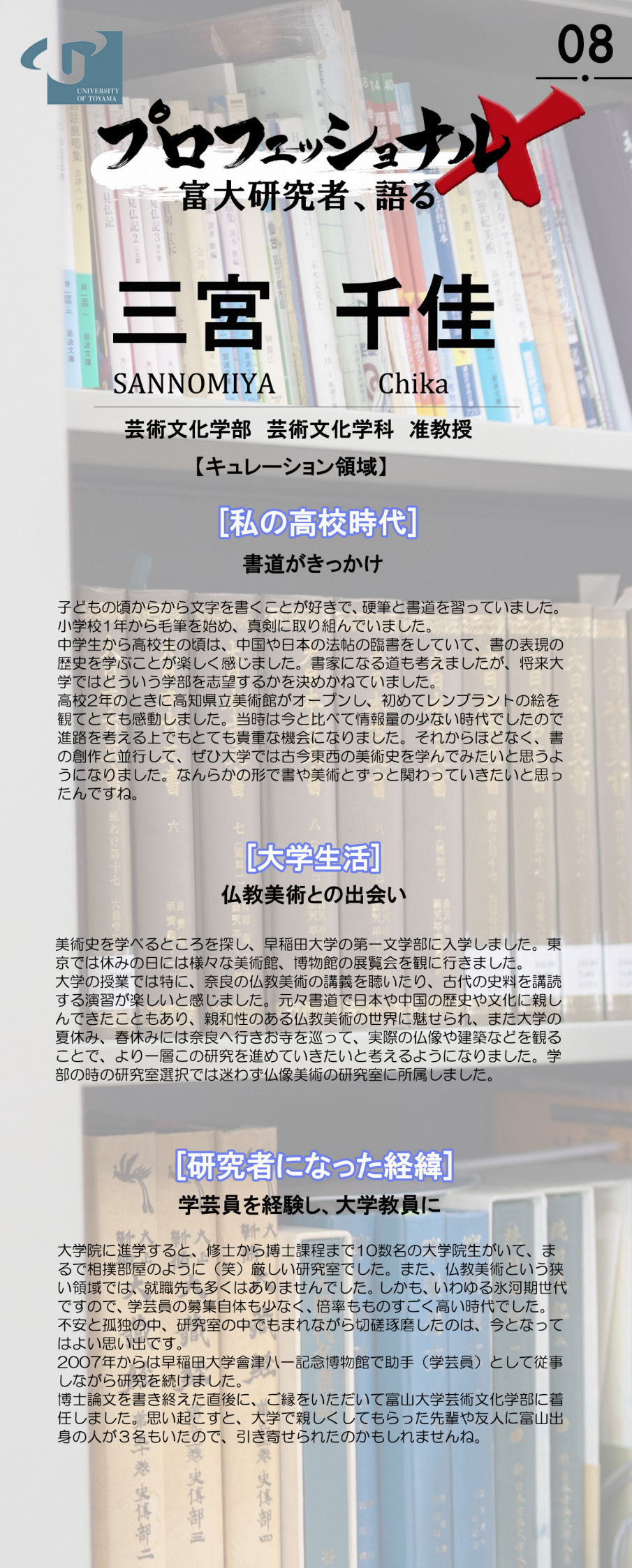




プロフェッショナルX

富大研究者、語る

三宮 千佳

SANNOMIYA Chika

芸術文化学部 芸術文化学科 准教授

【キュレーション領域】

【私の高校時代】

書道がきっかけ

子どもの頃からから文字を書くことが好きで、硬筆と書道を習っていました。小学校1年から毛筆を始め、真剣に取り組んでいました。中学生から高校生の頃は、中国や日本の法帖の臨書をしていて、書の表現の歴史を学ぶことが楽しく感じました。書家になる道も考えましたが、将来大学ではどういう学部を志望するかを決めかねていました。高校2年のときに高知県立美術館がオープンし、初めてレンブラントの絵を観てとても感動しました。当時は今と比べて情報量の少ない時代でしたので進路を考える上でもとても貴重な機会になりました。それからほどなく、書の創作と並行して、ぜひ大学では古今東西の美術史を学んでみたいと思うようになりました。なんらかの形で書や美術とずっと関わっていきたいと思ったんですね。

【大学生活】

仏教美術との出会い

美術史を学べるところを探し、早稲田大学の第一文学部に入学しました。東京では休みの日には様々な美術館、博物館の展覧会を観に行きました。大学の授業では特に、奈良の仏教美術の講義を聴いたり、古代の史料を講読する演習が楽しいと感じました。元々書道で日本や中国の歴史や文化に親しんできたこともあり、親和性のある仏教美術の世界に魅せられ、また大学の夏休み、春休みには奈良へ行きお寺を巡って、実際の仏像や建築などを観ることで、より一層この研究を進めていきたいと思うようになりました。学部の時の研究室選択では迷わず仏像美術の研究室に所属しました。

【研究者になった経緯】

学芸員を経験し、大学教員に

大学院に進学すると、修士から博士課程まで10数名の大学院生がいて、まるで相撲部屋のように（笑）厳しい研究室でした。また、仏教美術という狭い領域では、就職先も多くはありませんでした。しかも、いわゆる氷河期世代ですので、学芸員の募集自体も少なく、倍率もものすごく高い時代でした。不安と孤独の中、研究室の中でもまれながら切磋琢磨したのは、今となってはよい思い出です。2007年からは早稲田大学會津八一記念博物館で助手（学芸員）として従事しながら研究を続けました。博士論文を書き終えた直後に、ご縁をいただいて富山大学芸術文化学部に着任しました。思い起こすと、大学で親しくしてもらった先輩や友人に富山出身の人が3名もいたので、引き寄せられたのかもしれないね。

高校生へのメッセージ

今好きなことや、疑問に思うこと、また「社会でこうなりたい」という気持ちを大切に、自ら努力して追求していったほしいと思います。大学でたくさんの良い先生、友人、先輩後輩と出会い、学びを深めてください。本学で学芸員資格を取得し、学芸員になる卒業生だけではなく、自治体の公務員や文化振興事業団の職員として地域の文化資源の保護や活用に携わる卒業生もいます。大学で学んだことを活かし、社会に貢献する素晴らしいあり方だと思います。

美術史を学びたい、また学芸員資格を取得したい方は、ぜひ富大芸文へ！



学会での口頭発表

研究成果は学会で口頭発表をします。写真は2025年に中国・武漢市で行われたアジア鑄造技術史学会でのものです。この時は、中国人研究者の参加者が多かったこともあり、中国語で発表しました。



奈良研修旅行

大学院生と学部生と一緒に奈良のお寺を巡り、仏像や建築を学ぶ研修旅行です。机の上での学修や研究だけではなく、現場で実物作品を鑑賞することの大切さや意味を学びます。また、奈良のグルメをみんなで味わうのも旅の楽しみです。



中国金銅仏の再現実験

金銅仏（青銅でできた仏像）の研究では、作品を高精細3Dスキャンし、そのポリゴンデータを解析して鑄造技術を研究しています。さらにその解析結果の妥当性を検証するために、鑄造技法専門の共同研究者と学部内の鑄造室で再現実験も行っています。



アートイベントでの展示

博物館学芸員の経験を活かし、毎年アートイベントで作品展示をしています。写真は富山県高岡市のミラレ金屋町で、伝統的な町家の中で現代の漆芸家の作品を展示したときのものです。学生とともに企画を準備して展示をし、多くの来場者の方々に楽しんでいただいています。

Profile

1978年、高知県高知市生まれ。土佐塾高等学校出身。
早稲田大学第一文学部史学科美術史学専修 卒業。
早稲田大学大学院文学研究科芸術学（美術史）専攻修士課程修了。
早稲田大学大学院文学研究科芸術学（美術史）専攻博士後期課程修了。博士（文学）の学位を取得。2012年より富山大学芸術文化学部 着任。自然が豊かでや食事が美味しく、文化的にも見どころの多い高岡の暮らしが気に入っている。特技は幼少期から続けている書道。インドア派で、仕事と直結しているが読書、美術鑑賞、映画鑑賞が趣味。
現在の研究テーマ: 日本・東洋美術史、奈良時代の仏教美術、中国金銅仏の鑄造技法研究
担当講義: 日本美術史、東洋美術史、日本・東洋美術史演習、博物館概論、博物館実習、博物館資料論、博物館展示論など
所属学会: 美術史学会、アジア鑄造技術史学会、全日本博物館学会